

浮島沼の歴史



明治初期まで、本市の須津地区を中心として、浮島地区や沼津市、原地区にわたって大小の沼が点在しており、これらを総称して浮島沼と呼んでいました。浮島沼は柏原沼、須津沼、富士沼、大沼、

広沼などとも呼ばれていました。かつては中里の「西の池」と共に、富士講の信徒の行う富士八海めぐりの聖地の一つである「須津湖」に数えられていました。

この浮島沼の両には旧東海道が通り、歌川広重を始めとした浮世絵師らによって、富士山を背景にした浮島沼の風景が様々に描かれ、その面影を今に伝えています。

沼の周囲は浮島ヶ原と呼ばれる、およそ二十平方キロメートルにも及ぶ低湿地帯となっており、アシ、マコモが繁るアワラ湿原が広がっていました。沼や湿地帯では、フナやウナギ、シジミなどの魚介類がたくさん獲れました。しかし浮島ヶ原一帯は、海面との標高差がほとんどないことから、ひとたび大雨や高潮が襲うと、冠水して湖沼と化してしまうため、作物が育たず、浮島ヶ原の新田開発は大きな課題でした。

江戸時代を通して、潮除堤が盛んに築かれ、耕地を逆潮などの水害から守る努力がされましたが、堤が決壊したり、逆に堤により水田を囲ったため、流入した泥水や海水を排水できず、稲の根腐れなどの被害が増大することもありました。



このようななかで、浮島ヶ原では昭和三十年代まで「湿田農耕」が続けられました。腰や胸まで浸かって田植えをしなければならない湿田も多く、人々は農法や農具に様々な工夫を凝らし、稲の収穫に努めました。そこで使われていたナンバやオオアシ、タブネなどの独特の農具は、県指定有形民族文化財となっています。

この間にも引き続き、水はけを良くするための放水路や、海水の逆流を防ぐ港湾整備などの治水事業が多くの先覚者の手で行われ、その後の農地改良事業も加わり、現在浮島ヶ原は二千ヘクタールにも及ぶ美田に生まれ変わりました。



整備概要

- 平成13年度 植栽工(シダレヤナギ等)
- 平成14年度 土系園路471㎡、木道580m、木橋6基、デッキ9箇所、流れ工491m、
- 平成20年度 駐車場整備869㎡(H16)
- 平成21年度 管理棟、井戸1箇所

交通のご案内

- JR東海道新幹線 新富士駅より▶約10分
- JR東海道線 富士駅より▶約20分
- JR東海道線 東田子の浦駅より▶約15分
- 東名富士ICより▶約30分



- 浮島ヶ原自然公園
- カーナビ検索
- 富士市中里2553-8
- 駐車場無料(普通車35台)

お問い合わせ

富士市役所 都市整備部 みどりの課
 ☎ 0545-55-2795 ☎ 0545-53-2772
 ✉ midori@div.city.fuji.shizuoka.jp

守りたい貴重な自然

浮島ヶ原自然公園

The Ukishimagahara Nature Park



浮島ヶ原自然公園

なつかしいアシの風景や湿原の貴重な植物との出会い

浮島ヶ原自然公園へようこそ!

代表的な昆虫



アオモンイトトンボ



アキアカネ



チョウトンボ



アカタテハ



ヤマトシジミ

浮島ヶ原の湿原には、環境省レッドデータブックに記載されている貴重な植物が分布しており、特に保護すべき植物群落として提言されています。

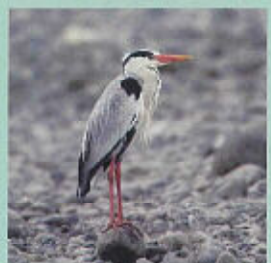
そこで、富士市では浮島ヶ原湿原の貴重な植物や自然風景を保全し、身近にその自然が観察できる自然公園として整備しました。

平成27年4月21日、浮島ヶ原自然公園が「浮島ヶ原のサワトラノオ群生地」として富士市指定天然記念物(植物群落)に指定されました。

全国的に稀で絶滅が危惧されている「サワトラノオ」「ヒキノカサ」や「ノウルシ」の群落、そして浮島固有種とされていた「ナヨナヨスレナグサ」など、珍しい植物との出会いをお楽しみください。



代表的な鳥類



アオサギ(1年中)



カワセミ(1年中)



カルガモ(1年中)



ノスリ(冬)



ジョウビタキ(冬)

代表的な植物



ノウルシ
(3月中旬～4月中旬)



ヒキノカサ
(3月中旬～4月中旬)



サワトラノオ
(4月下旬～5月中旬)



ナヨナヨスレナグサ
(5月初旬～6月下旬)



タコノアシ
(9月中旬～11月中旬)